Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 23第1号
2023年（令和五年） 4月7日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ10階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

3/23～3/29のNYMEX・WTI先物市場は69.26～73.20ドルの範囲で推移した。

3月30日は、米原油在庫の減少に加え、イラクとトルコを結ぶパイプラインの稼働停止が引き続き材料視され反発した。5月限終値は、前日比1.40ドル高の74.37ドルだった。

米エネルギー情報局（EIA）が前日発表した24日までの1週間の原油在庫統計が小幅な在庫積み増し予想に反し、前週比750万バレル減となり、予想外の在庫急減で需給逼迫懸念が強まり買いが先行した。また、イラクのクルド自治区内にある油田からトルコを経由するパイプラインの稼働が依然停止していることも、引き続き相場を下支えた。

31日は、インフレ関連指標の鈍化を受けて米連邦準備制度理事会（FRB）による早期の利上げ停止観測が改めて台頭し、需要拡大につながるとの期待感につながり続伸し、前日比1.30ドル高75.67ドルだった。

週明け3日は、有力産油国による減産幅拡大の表明を受けて急伸し、前週末比4.75ドル高の80.42ドルと、約1ヵ月ぶりに80ドルの節目を上回った。上伸は3営業日連続。サウジアラビアは2日、「石油市場の安定を支えるための予防的措置」だとして、原油生産量を5月から年末にかけて日量50万バレル減らすと発表。石油輸出国機構（OPEC）加盟・非加盟の主要産油国で構成する「OPECプラス」のその他各国も自主削減に応じ、減産規模は合計で推定日量約116万バレルとなる。これにより、従来の日量200万バレルを合わせると、減産幅は日量366万バレルに拡大。予想外の追加減産表明を受けて需給逼迫懸念が強まり、相場は一時81ドル台後半まで上昇する場面もあった。

4日は、4営業日続伸し、前日比0.29ドル高の80.71ドルで取引を終えた。サウジアラビアなど主要な産油国が自主的な追加減産を2日に決めたことから、需給引き締まりを見込んだ買いが続いた。ただ、景気懸念も根強く、上値は重かった。

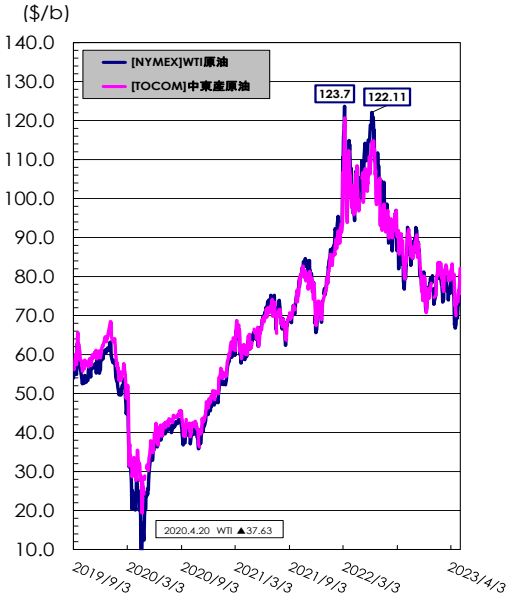
5日は、米景気先行き懸念が強まる中、エネルギー需要が落ち込むとの見方から、5営業日ぶりに反落した。5月限の終値は前日比0.10ドル安の80.61ドル、6月限は0.09ドル安の80.63ドルだった。米民間雇用サービス会社ADPが発表した3月の全米雇用報告では、非農業部門の民間就業者数は前月比14万5000人増と、市場予想を下回った。また、米サプライ管理協会（ISM）のサービス業後退担当者景況指数（PMI）は前月から低下。これを受けて、米景気減速観測が台頭し、エネルギー需要にも影響するとの連想につながった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（5月渡し）は、3月23日～29日の間、74.80～78.10ドルの範囲で推移した。3月30日77.30ドル、31日77.80ドル、4月3日83.10ドル、4日85.20ドル、5日84.90ドルで推移した。

為替は、3月23日～29日の間、130.65～131.28円の範囲で推移した。3月30日132.55円、31日133.53円、4月3日133.15円、4日132.62円、5日131.57円で推移した。

そのような中で、4月3日時点の価格は、ガソリンが前週比0.1円の値上がり、軽油も同0.2円の値上がり、灯油は同1円の値下がり（18リットルベース）であった。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油も3週連続の値上がり、灯油は3週ぶりの値下がりとなった。ガソリンの全国平均価格は168.1円であった。また、次週も燃料油価格激変緩和対策が発動され、補助金の支給額は11.9円となった。

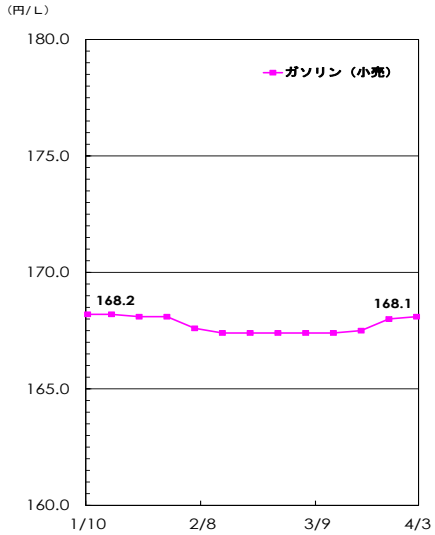
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	3/26 ～ 4/1	2,946	▲ 64	▲ －
需給	トッパー稼働率	（%）	〃	79.5	▲ 1.8	▲ －
需給	原油在庫量	（千kl）	4/1	10,161	▼ -411	▲ －
価格	中東産原油(TOCOM)	（$/bbl）	4/3	82.11	▲ 8.62	▼ -17.5
価格	WTI原油（NYMEX）	（$/bbl）	4/3	80.42	▲ 7.61	▼ -22.9
価格	原油ＣＩＦ単価	（$/bbl）	3月上旬	85.77	▼ -2.24	▼ -6.08
価格	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	72,206	▼ -1,007	▲ 5,278
価格	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	133.84	▼ -1.59	▼ -17.99
価格	外国為替ＴＴＳレート	（¥/$）	4/3	134.15	▼ -2.50	▼ -10.73



（単位：千kl、円/㍑）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		3/26 ～ 4/1	902	▲ 43	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	830	▲ 13	▼ –
	輸出		〃	66	▼ -45	▼ –
	在庫		4/1	1,583	▲ 6	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	3/28 ～ 4/3	76.2	▲ 0.4	▼ -4.2
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/28 ～ 4/3	73.0	➡ 0.0	▼ -1.7
		(TOCOM/中部)	4/3	74.1	▲ 0.5	▼ -5.9
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	4/3	168.1	▲ 0.1	▼ -6.0

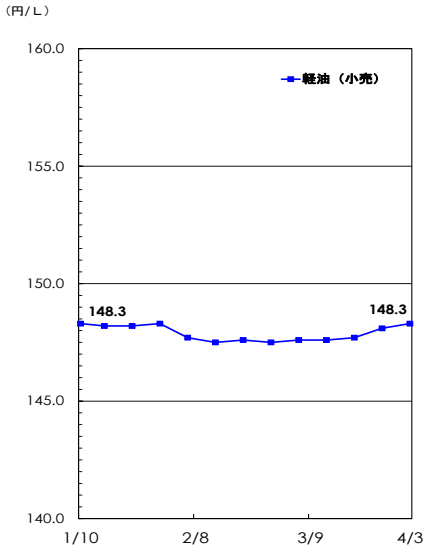
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

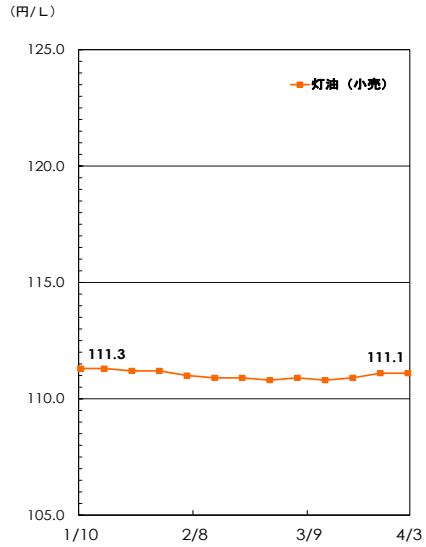
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		3/26 ～ 4/1	733	▼ -18	▲ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	588	▼ -9	▼ –
	輸出		〃	209	▲ 110	▼ –
	在庫		4/1	1,105	▼ -65	▼ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	3/28 ～ 4/3	76.7	▼ -0.1	▼ -4.4
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/28 ～ 4/3	78.7	▲ 0.7	▼ -12.6
		(TOCOM/中部)	4/3	–	–	–
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	4/3	148.3	▲ 0.2	▼ -5.5

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		3/26 ～ 4/1	195	▼ -74	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	162	▼ -70	▼ –
	輸出		〃	0	▼ -47	▲ –
	在庫		4/1	1,268	▲ 33	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	3/28 ～ 4/3	76.7	▲ 0.1	▼ -3.6
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/28 ～ 4/3	75.0	➡ 0.0	▼ -3.1
		(TOCOM/中部)	4/3	76.3	➡ 0.0	▼ -3.7
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	4/3	111.1	➡ 0.0	▼ -3.4



■ 関連情報

1　海外/原油

当週（3月30日～4月5日）のWTI石油先物市場は、30日の74.37ドルで始まり、週明け4月3日には、有力産油国による減産幅拡大の表明を受けて急伸、前週末比4.75ドル高の80.42ドルと、約1ヵ月ぶりに80ドルの節目を上回り、4日まで続伸した。しかし、5日は、米景気先行き懸念が強まる中、エネルギー需要が落ち込むとの見方から、5営業日ぶりに反落した。5月限の終値は前日比0.10ドル安の80.61ドルで終わった。ただ、4月5日発表の31日時点の米国エネルギー情報局（EIA）の米国国内週間在庫統計によると、原油在庫は前週比370万バレル減と、市場予想（230万バレル減）を上回る取り崩しであった。

EIAによると、4月3日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比7.6セント値下がりの1ガロン3.497ドル（123.8円/㍑）と3週振りの値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比2.3セント値下がりの1ガロン4.105ドル（145.3円/㍑）と9週連続の値下がりであった。

ベーカーヒューズ社によると、3月31日時点で、米国内稼働石油掘削装置は、前週比1基減の592基と2週振りに減少した。

2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、2023年3月26日～4月1日に休止したトッパー能力は32.0万バレル/日で、前週に対して1.7万バレル/日減少した（全処理能力は333.1万バレル/日）。

原油処理量は294.6万klと、前週に比べ6.4万kl増加。前年に対しては2.5万klの増加。トッパー稼働率は79.5%と前週に対して1.8ポイントの増加、前年に対しては3.6ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェット、A重油が増産となり、その他の油種で減産となった。

ガソリン/5.0%増、ジェット/13.8%増、灯油/27.4%減、軽油/2.3%減、A重油/3.5%増、C重油/5.4%減。今週のC重油の輸入は7.2万kl（前週比6.6万kl増）。軽油の輸出は20.9万kl（前週比11.0万kl増）。

出荷（輸入分を除く）は前週に比べて、ガソリンが増加し、その他の油種で減少した。前年比では全ての油種で減少した。ガソリンの出荷は83.0万kl（対前週1.7%増）と2週連続で増加した。ジェット6.7万kl（対前週20.3%減）、灯油16.2万kl（対前週30.1%減）、軽油58.8万kl（対前週1.4%減）、A重油18.5万kl（対前週3.6%減）、C重油14.5万kl（対前週10.9%減）。

（単位：千KL）

	今週 (3/26 ~ 4/1)	前週 (3/19 ~ 3/25)	前週比	
ガソリン	830	817	▲ 13	(2%)
ジェット燃料	67	85	▼ -18	(-21%)
灯油	162	232	▼ -70	(-30%)
軽油	588	597	▼ -9	(-2%)
A重油	185	192	▼ -7	(-4%)
C重油	145	163	▼ -18	(-11%)
合　計	1,977	2,086	▼ -109	(-5%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

2　国内/製品需給　（2）在庫

4月1日時点の在庫はガソリン、灯油、A重油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

前年に対してはジェット、軽油が減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは158.3万kl、前週差0.6万kl増。前年に対しては5.5万kl多い。

灯油は126.8万kl、前週差3.3万kl増。前年に対しては23.6万kl多い。

軽油は110.5万kl、前週差6.5万kl減。前年に対しては6.3万kl少ない。

A重油は71.7万kl、前週差3.1万kl増。前年に対しては8.2万kl多い。

C重油は175.1万kl、前週差3.7万kl増。前年に対しては26.7万kl多い。

（単位：千KL）

	今週 (4/1)	前週 (3/25)	前週比	
ガソリン	1,583	1,577	▲ 6	(0%)
ジェット燃料	704	752	▼ -48	(-6%)
灯油	1,268	1,235	▲ 33	(3%)
軽油	1,105	1,170	▼ -65	(-6%)
A重油	717	686	▲ 31	(5%)
C重油	1,751	1,714	▲ 37	(2%)
合　計	7,128	7,134	▼ -6	(-0.1%)

3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

3月28日～4月3日のドル建て中東原油価格は値上がりし、為替レートが円安となり、元売会社の円建て原油コストは、4.5円値上がりしたものと見られる。

上記コストに先週の補助金額8.1円を加え、今週の補助金11.9円を差し引いた、4/6～12の実質的な元売会社の卸価格は0.7円の値上げとなった模様。

3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

3月28日～4月3日の製品スポット市況は、3月21日～27日平均と比べ、ガソリンと灯油の先物取引の横ばい、軽油の陸上と、ガソリンと軽油の海上の値下がりを除き、他の取引・油種で値上がりした。

直近週（3/28～4/3）の陸上スポット価格平均値は、前週（3/21～3/27）比で、ガソリンは0.4円の値上がり、灯油は0.1円の値上がり、軽油は0.1円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週（3/28～4/3）に、前週（3/21～3/27）比で、ガソリンは0.8円の値下がり、灯油は0.2円の値上がり、軽油は0.5円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油も横ばい、軽油は0.7円の値上がりだった。

（RIM）　（単位：円/㍑）

[陸上ローリー 4地区平均]		今週　(3/28 ~ 4/3)	前週　(3/21 ~ 3/27)	前週比
スポット価格	レギュラー	76.2	75.8	▲ 0.4
	灯油	76.7	76.6	▲ 0.1
	軽油	76.7	76.8	▼ -0.1

（TOCOM）　（単位：円/㍑）

[期近物/終値] 〔平均〕		今週　(3/28 ~ 4/3)	前週　(3/21 ~ 3/27)	前週比
先物価格	レギュラー	73.0	73.0	➡ 0.0
	灯油	75.0	75.0	➡ 0.0
	軽油	78.7	78.0	▲ 0.7

※上記価格は税抜き価格

参考値　（3/28～4/3実績値）　（単位：円/㍑）

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.4	➡ 0.0	▲ 0.2
灯油	▲ 0.1	➡ 0.0	▲ 0.1
軽油	▼ -0.1	▲ 0.7	▲ 0.3
A重油	▼ -0.5		

（出所）現物：　RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：　TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4　国内/製品小売価格

4月3日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円高の168.1円、軽油も0.2円高の148.3円、灯油は18㍑ベースで1円安の1,999円（1㍑ベースでは±0.0円の111.1円）。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油も3週連続の値上がり、灯油は3週ぶりの値下がりだった。

ガソリンについて都道府県別には、値上がりは26道府県、横ばいは3県、値下がりは18都県だった。全国最安値は徳島県と宮城県の161.8円、その次は兵庫県の162.0円であった。他方、最高値は長野県の178.8円だった。

最も値上がりしたのは沖縄県と和歌山県（前週比1.9円高）、横ばいは岡山県他3県、最も値下がりしたのは佐賀県（同2.1円安）だった。

次回調査時（4/10）のガソリンの小売価格は、横ばいもしくは小幅な値上がりが予想される。

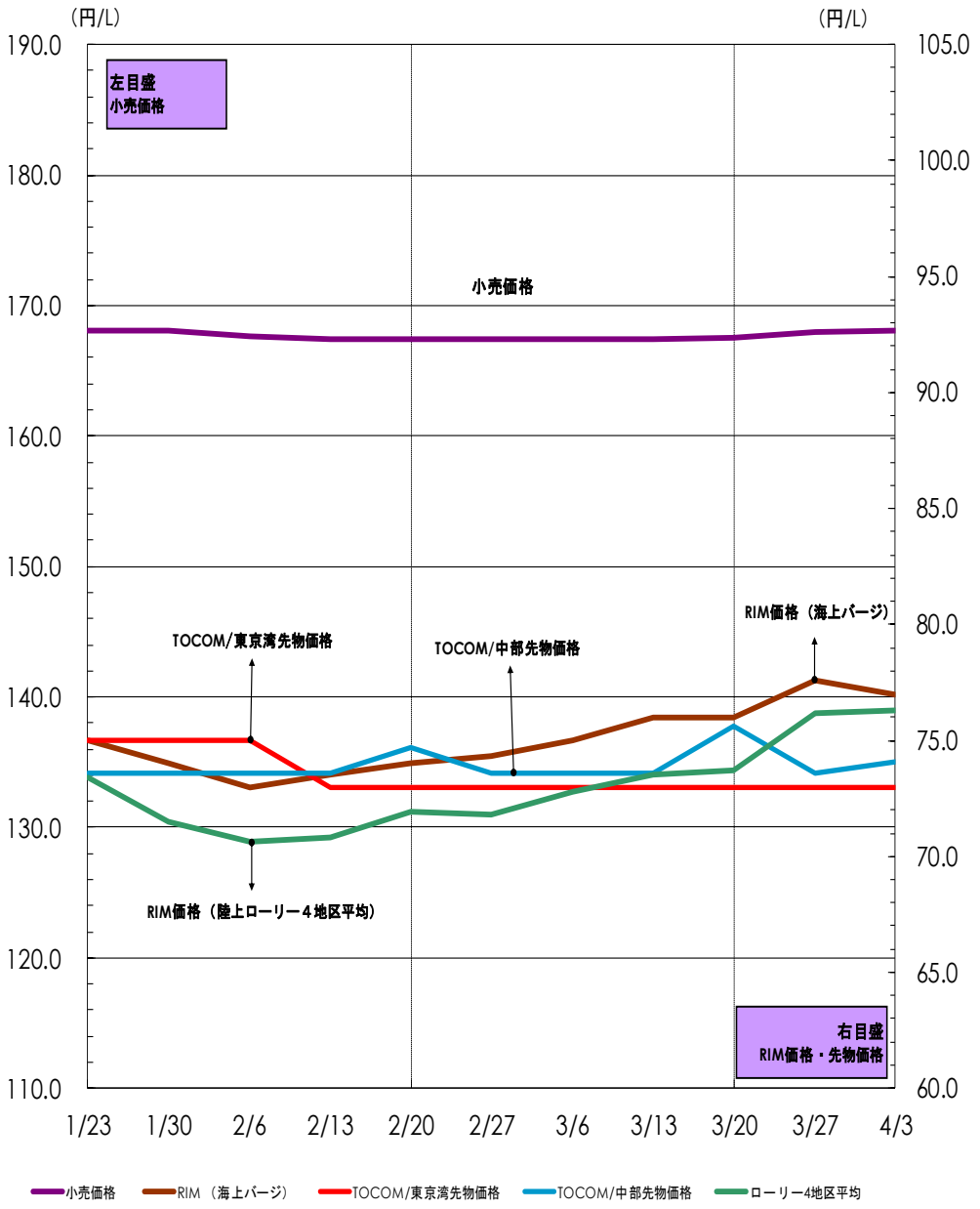
（単位：円/㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(4/3)	前週　(3/27)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	168.1	168.0	▲ 0.1	08/8/4	185.1
	灯油	111.1	111.1	➡ 0.0	08/8/11	132.1
	軽油	148.3	148.1	▲ 0.2	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2023/1/23　～　2023/4/3)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2023第2号）の公表は、4/14（金）14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁ーHPに掲載）。